

教科指導の改善プラン（第1学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第1学年	現状の課題	・文字（ひらがな・カタカナ・漢字）の習得に課題がある児童がいる。 ・音読の際、ひとまとまりの言葉として読むことに課題がある。 ・語彙力の少なさから文章を書くことに課題がある児童がいる。	・文章問題の問題場面をイメージできず、式に表すことに課題がある児童がいる。 ・10までの数の加法・減法では、計算する際に指やブロックを使う児童もいる。	・さまざまな体験や活動は意欲的に行う。しかし自己の気づきに結びつかない児童が多い。 ・気付いたことを言語化することに課題がある。	・読み物資料の問題場面を考える際、場面の状況把握に課題がある。 ・自分の生活を振り返ること（一般化）に課題がある。
	具体的な改善のための方策	・授業中に机間指導をしながら、字のバランスやとめ・はね・はらいについて声をかけ定着につなげる。休み時間や放課後等の時間も使い定着を図る。 ・授業の始めに音読の時間を設けたり、家庭学習で毎日音読に取り組みせたりして、まとまりとして文を読むことに慣れさせるようにし、定着につなげる。 ・単元の始めにわからない言葉の意味を確認したり、言葉集めの学習を取り入れたりする。	・問題場面の絵を描かせたり、具体物による操作活動をさせたりして、問題場面を捉えさせる。 ・10の合成と分解を繰り返しブロック等や百玉そろばん等の具体物を操作しながら計算をさせる。	・活動後の表現の際、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与え、自らの気づきを振り返ることができるようにする。観察カードの記入等で自分の気づきを意識させる。 ・気付いたことをどう言語化するのか、手本を提示する。	・場面の的確な状況理解を促すために、発問を吟味する。また、板書や資料提示を分かりやすく工夫する。 ・ワークシートや最後の発問を工夫し、教材を生かして自分の生活への振り返りを行う。
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	・運動に苦手意識を持っている児童がいる。 ・走る、投げるといった基本動作や柔軟性などの基礎・基本的な動きに個人差がある。	・全体的には、歌が好きで一生懸命歌を歌うが、気持ちが歌に向かない児童も数名いる。	・絵や作品を作るのが好きな子は多いが、表現のしかたや、用具の扱いが苦手な児童がいる。	
	具体的な改善のための方策	・授業中だけでなく、休み時間も使って幅広い運動・遊びに取り組みせ、できる活動を増やして自信につなげていく。	・音楽に合わせて身体を動かしたり、リズム遊びをしたりして、表現に必要な技能を身に付けさせるとともに、音楽活動への興味や意欲を高める。	・材料や用具の基本的な使い方の指導を繰り返し行い、十分に慣れさせるための時間を確保する。また、題材の中に複数の技法を取り入れることで定着につなげていく。	

教科指導の改善プラン（第2学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	算数	生活	特別の教科 道徳
第2学年	現状の課題	・話したい気持ちはあるが、言葉が足りなかったり、冗長になったりして相手に正しく伝えることに課題がある。 ・書くことに対する個人差が大きく、順序立てて分かりやすい文章が書くのに課題がある児童もいる。	・足し算の繰り上がりや、引き算の繰り下がりが直ぐにはできない児童が散見される。 ・問題解決をする際に、既習事項を活用して答えまでたどり着かない児童がいる。	・体験活動を意欲的に行うことができるが、ふり返りや自己の気づきに結びつかない児童もいる。	・教材を自分のこととして捉えることが難しい児童もみられる。 ・教材の内容と自分の生活を関連付けて考えを深めることに課題がある。
	具体的な改善のための方策	・話し方、聞き方のポイントを指導し、定着をはかる。漢字、音読を日常的に指導し、繰り返し学習を習慣づける。 ・「はじめ」「中」「おわり」を意識した文章やつなぎ言葉の活用など、書き方のパターンを使って練習させる機会を設ける。	・百ます計算などの基礎的な計算問題を、ぐんぐんタイム等を有効に使うことで計算力の向上を図る。 ・問題解決学習を進める際には、具体的な手立てや方法（言葉や文章、式、絵や図、グラフや表など）を例示し、徐々に問題解決を図る方法を知る機会をつくっていく。	・活動後、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの視点を与える。観察においては、「大きさ・長さ・形・匂い・手触り・色」などの視点を与え、具体的に書かせたり、発表させたりする。	・ねらいをはっきりとした授業をする。 ・教材提示や発問を工夫し、登場人物へ自我関与しやすい状況を設定する。
		体育	音楽	図工	
	現状の課題	・運動が好きな児童が多いが、基本的な動き（コース内を真っ直ぐ走る・ボールを真っ直ぐ投げる・ブリッジ・前回り下り・後転・大縄・けのびなど）に課題がある児童もいる。	・特定の歌を歌う授業が多く、歌唱に苦手意識を持つ児童が一定数存在しており、それらの児童が意欲的に授業に取り組めていない。	・活動に意欲的な児童が多いが、身近で扱いやすい材料や用具の基本的な扱い方を確認する必要がある。また、発想や構想の能力に課題のある児童が見られる。	
	具体的な改善のための方策	・様々な動きを取り入れた運動ゲームを積極的に行う。 ・授業の準備運動の後に体慣らしの時間を常時設けて取り組む。 ・休み時間や放課後にも運動に取り組み、運動の日常化を促す。	・様々な曲に触れることを通して、歌を歌ったり、曲を弾いたりする機会を増やし、より多くの児童の音楽への興味・関心を高められるようにする。	・感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。また、活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。	

教科指導の改善プラン（第3学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第三学年	現状の課題	・物語文において、大まかなのあらすじは理解できるが、叙述に基づいて想像すること、想像したことを友達と伝え合うことに課題がある。 ・説明文において、大体の文章の組み立てを捉えることはできるが、「問い」に対する「答え」を自力で見つけ、書き出すことに課題がある児童がいる。	・資料から分かったことを、ノートに書き出すことに課題がある。 ・地図記号や八方位等の知識が定着しきれていないため、地図を読むことが難しい児童も少なくない。	・時間や時刻を求めるための繰り上がりや繰り下がりが苦手な児童が多い。 ・計算はできていても、あまりのあるわり算の文章問題の意味を正確にとらえることが苦手な児童が多い。 ・三桁のひき算の繰り下がりのミスが多く見られる。	・昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多いが、知識を問うテストになると、どう答えて良いのか分からなくなる児童がいる。	・個人の運動は一人一人がよくがんばるが、グループ競技になると、得意な児童だけが活躍してしまうことがある。また、勝ち負けに熱くなりすぎて失敗を責めてしまうことがある。
	具体的な改善のための方策	・物語文において、物語を想像するときの根拠となった文にサイドラインを引いたり、言葉を囲んだりして、必ず教科書の叙述に基づくことを意識させ、定着させる。 ・説明文において、サイドラインを引かせる際に「問い」と「答え」が対になって、ある程度同じパターンで書かれていることに気付かせる。	・資料から教師が読み取ってほしいことの視点をいくつか例に出してから、学習に取り組ませる。 ・地図を読む際は、どこが方位や記号かを全体で確認してから学習を始め、繰り返して定着を図る。	・筆算をして確認し、時間と時刻の定着を図る。 ・文章題では、使う数字や聞かれていることに印をつけてから取り組むことを年間を通して行っていく。 ・ベーシックドリルを活用し、既習内容の基本的な学習の定着を図る。	・観察の際に具体的な観察の観点を提示し観察するようにさせる。 ・大事な用語は、教科書の単元のまとめページや教科書の音読を宿題に出すなど、何度も復習させ定着を図るようにする。	・みんなが活動しないと勝てない規則を作ったり、教え合う場を設定したりする。失敗した時こそ励ましの言葉をかけられるように繰り返し声かけをする。
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動	
	現状の課題	・歌唱表現では、表現に必要な技能、特にきれいな歌声の出し方の定着に課題がある。 ・歌唱表現・器楽表現ともに、発表では自信や意欲がある児童が多く行っている現状である。同時に、繰り返す練習が不足して発表への自信を失くしている児童が見受けられる。 ・音楽づくりでは、発想はよく個々が独自のアイデアを持つことができる。その一方で、その考えを工夫し続けることに難しさをもつ児童がやや多くいる。	・身近で扱いやすい材料や、用具の基本的な扱い方が十分に身につけていない児童がいる。 ・粘り強く取り組む姿勢や、発想や構想の能力に課題のある児童が見られる。	・友達の考えに共感したり違いを考えたりの相互間での深まりは少ない。	・初めての外国語の学習に意欲と関心をもっている児童が多い。 ・繰り返し声に出して真似すること、みんなの前で発音することにチャレンジすることが課題である。	
	具体的な改善のための方策	・表現に必要な技能の定着に向け、歌唱や器楽の学習を短時間でも毎時間行う。 ・発表に難しさを感じている児童へは、休み時間等を利用した個別学習にて繰り返し練習をできるようにする。 ・音楽づくりの学習については、各題材において取り組む活動を増やし、工夫を重ねることへの慣れを図る。	・感覚や技能を働かせる活動を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。 ・粘り強く取り組むことを十分に評価し、また活動の予告や児童の興味関心にあわせた題材設定を行うことで、発想や構想を促す。	・考えを比較できるように、共通点や相違点を、教師が児童に問うようにする。	・ALTを活用し、正しい発音を身に付けていくようにする。 ・ゲームの中で自然と繰り返し発音できるような学習を行う。 ・少人数や、グループ、ペアなど、少ない人数の中で発音する場面を多くとり、自信をもてるようにする。	

教科指導の改善プラン（第4学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第四学年	現状の課題	・読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったりすることに課題がある。 ・考えたり思ったりしたことを話言葉で伝えることを多くの児童ができている。他方で、それをノートやワークシートに書くということには課題がある。	・資料の読み取りについては、読み取る内容が明確の場合において、的確に読み取りができる。一方で、「どの資料を読み取れば特定の事象の読み取りができるか」を考えなければならない場合は、苦手とする児童が多い。	・角の測定について、分度器を使った作図がよくできているが、どちらの目盛りを読むのか区別がつかず、例えば70°＝130°といった捉え方をしている児童が多い。 ・知識・技能の定着は平均で8割を超えているが、文章題など思考を伴う課題については、問題文から必要な条件を読み取り、立式することに課題が見られる。	・観察、実験の技能においては、基礎的な実験方法や器具の使い方が身に付いていない傾向にある。 ・実験結果から考察、推論することに課題がある。	・個人による運動量、練習量に差がある。 ・技のポイントを意識して練習に取り組むことのできる児童が少ない。
	具体的な改善のための方策	・物語文、説明文の指導においては文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、一単位時間のねらいを焦点化していく。 ・日ごろの学習で考えたり思ったりしたことを書く時間を長く設定する。また、書いたことに対して教師が積極的に評価をするだけでなく、友達からも良い点を伝えてもらう時間を設定する。	・資料の読み取りをする時には、その資料から何が読み取れるか確認し、児童一人一人がその資料が何の資料であるか確実に掴めるように指導を行う。それを社会科だけでなく、その他の教科でも行っていく。	・後続の単元でも分度器の使い方や読み方を再確認し、正確な読み取りができるように指導する。 ・文章題からわかっていること、問われていることを汲み取ることを促す。そのうえで繰り返し演習する機会を設ける。	・観察、実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。 ・実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。	・すすんで運動したくなるような場の設定をする。 ・技のコツが理解できるよう、手本を繰り返し示す。
		音楽	図工	特別の教科 道徳	外国語活動	
	現状の課題	・歌唱表現では、表現に必要な技能、特にきれいな歌声の出し方の定着に課題がある。 ・学習内容に意欲をもって取り組む児童はやや多く、習得が早い。一方で意欲が持続しない・意図しないほうへ気が逸れることもあり、学びを深めるに至らない。 ・グループワークの経験が少なく、協働した学習が円滑でない。	・他の学年に比べ、発想する時に参考作品や友だちの作品と同じような作品を製作する傾向があり、創造性に課題がある。 ・新出道具の安全な使い方や、既習の身近な材料や用具の基本的な扱い方が十分に身につけていない児童が多い。	・教材を自分事として捉えて考えられる児童が少ない。個別の事象として捉えてしまっている。	・児童同士のコミュニケーション活動には、意欲的に取り組んでいる様子である。しかし、チャンツや歌を歌う活動では、声が小さく、全体的に消極的である。	
	具体的な改善のための方策	・表現に必要な技能の定着に向け、歌唱や器楽の学習を短時間でも毎時間行う。 ・音楽表現のためのよい雰囲気づくりに向け、自分の思いや意図を持つこと・友人の考えを尊重する声掛けや活動を設定していく。 ・協働した学習・深い学びの達成にむけ、グループワークを多く取り入れる。	・興味関心を高める題材・発問の設定する。また発想・構想をする時間を確保し、言語化を手助けし、着想を評価する場面を増やす。 ・安全指導を丁寧に行い、活動の中で創造的な技能を十分に扱えるようにする。	・より自分事として捉えられるように、似通った児童の身近な経験を聞いたり、こちらから例示したりしていく。	・授業の導入場面で、チャンツや歌を歌う活動を意図的に取り入れ、英語を発話することに慣れさせる。	

教科指導の改善プラン（第5学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第五学年	現状の課題	・言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的に実施している漢字小テストでは、高い習得率が見られるが、学期末に実施したまとめテストでは習得率は高くない。また、学習した漢字を作文中で適切に使用したり、正確に音読したりすることは苦手な児童が多い。 ・読む能力においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。物語文でも同様に読んで概要を捉えたり、登場人物の心情を読み取ったり、要旨を読み取ることに課題がある。 ・書く能力においては、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことに課題がある。	・世界の地域の様子や日本の国土、気候に対して、イメージをもって学習することが難しく、知識・理解の習得率が低い。 ・教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくには課題がある。	・桁数の大きいかけ算、わり算に課題が見られる。特にわり算の習熟に課題が見られる児童が多い。小数点の動かし方や倍の考え方が理解できていない児童が多い。小数点の位置による間違いと単純な計算による間違いも多い。そのため、小数のわり算の習得率は70％程度となっている。 ・文章問題では、問題場面をイメージし、分かっていることと聞かれていることを整理して、正しい式を立てることに課題がある。 ・いろいろな単位に対する理解が十分でない。 ・図形において、正確に描くことに課題がある児童が数人いる。	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。「天気の変化」や「植物の成長」においては、身近であるため比較的理解できているが、「魚のたんじょう」においては、児童によって差がある。 ・実験の結果から考察することが難しい。実験結果から推論することには課題がある。	・運動をすることに消極的な児童がいる。 ・課題意識をもって運動に取り組むことを苦手としている児童が見られる。 ・運動能力の個人差が大きい。
	具体的な改善のための方策	・小テストの範囲や時期を伝え、テストと練習を習慣化させる。また、作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中で繰り返し指導していく。音読練習を適宜取り入れ、漢字と音を一致させていくように指導していく。また、あわせて敬語の種類についても繰り返し指導し、習熟を図る。 ・物語文、説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、全体の構成をとらえさせ、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 ・文章を書く際には、構成メモを作成し、書きたいことの中心を明確にしたり、書き出しやまとめ方を考えたりしてから書くように指導していく。原稿用紙の使い方については、基本から丁寧に繰り返し指導していく。	・知識や技能的なことは繰り返し学習していかないと定着しない傾向がある。授業の導入では前時の振り返りを行い、日本と世界のつながりを理解し、興味関心を広げながら意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・問題解決的な学習を推進し、一つの資料から読み取っていくだけではなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。 ・ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。	・文章問題から、何が分かっていることで、何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復復習を行う。 ・文章問題を解くとき、数直線や四ます関係図を描くことを習慣づけて、そこから立式することに慣れさせる。 ・朝学習や家庭学習を利用して、既習内容の計算練習を行う。 ・単位換算のプリントを活用して、反復練習をする。 ・図形の求積や単位量当たりの大きさの問題を解くための見通しをもたせるようにする。 ・三角定規や、コンパスを使う学習を朝学習や宿題等で習熟させ、算数用具に慣れさせる。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協働学習、全体での共有化など） ・植物の成長や、雲の動きなど、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに對する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスパイラルに学習計画を立てていく。 ・課題→予想→結果→考察→まとめの流れをパターン化させ、考察することに慣れさせていく。	・動機付けを工夫し、スモールステップで課題に取り組ませる。 ・ワークシートを通して、運動のポイントや向上のためのポイントを意識させる。 ・児童一人一人が自分の力に合ったためあてをしっかりともち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。
		音楽	図工	家庭	特別の教科 道徳	外国語活動
	現状の課題	・意欲的に表現活動に取り組む児童が多くいる。一方で、粘り強く取り組むことや学習内容をきちんと習得することへ課題がある児童も多い。そのため、知識・技能に個人差が大きくなっているのが現状である。 ・日頃より、友達とのコミュニケーションを活発に行うことができるのができるが、学習活動の中では上手に活用されない。 ・感染症拡大予防のため歌唱・器楽表現を主とする学習が未実施である。	・意欲的に表現活動に取り組めるが、指示を聞いて用具の準備をしたり、次は何をすればいいか自分で考え活動したりすることに課題がある。 ・発想構想の能力・技能とも、差が大きく、支援が必要な児童が比較的多い。	・どんなお手伝いをしているかについてや、整理整頓のコツなどグループで相談する広がる学習が多々ある。しかし、今はコロナ禍でその授業体制は難しいことが多い。また、調理実習などもできない。 ・手縫いの技能に差があり、細かい指導が必要である。	・道徳的価値への理解に課題がある。 ・物事を多面的、多角的に考える力に課題がある。	・英語を話すことに積極的ではあるが、分からない単語や文章になると、途端に消極的になってしまう。 ・習熟に個人差がある。アルファベットの文字を正確に書いたり言ったりすることができない児童がいる。 ・英語を聞く力に個人差が大きい。
	具体的な改善のための方策	・活動に意欲的に参加できるように、学習規律の確認やできたことへの認め合いを行っていく。 ・感想や意見を共有できる活動を積極的に行い、学習を深めるコミュニケーションに慣れさせる。 ・粘り強く学習できる雰囲気を作れるよう、学習の流れの提示や個人的な声掛けを行っていく。 ・飛沫防止を念頭に置き歌唱・器楽表現の学習を行う。	・板書を活用したりできたことを認め合ったりしながら、自分でやるべきことを考える習慣をつけていく。 ・支援が必要な子には、個別に具体的な指示を出し、スムーズに取り組み始められるようにする。	・学習する順番を入れ替えるなどして、コロナの状況を見据えながら学習していく。また、保護者にも協力を仰いで、家庭学習で家庭科の技能や知識を身に付けさせる。 ・教科書のバーコードの映像などをたくさん取り入れながら、見て技能を習得できるようにする。	・道徳的価値への理解が深められるよう、教材提示の方法（範読、BGMの活用、紙芝居、PCなど）や自我関与が深まるような発問を工夫する。 ・普段の生活場面から、物事は様々な面から見られることを取り上げ、児童が多面的、多角的に考えることのできる材料を与える。	・何度も繰り返しして自信が発音することに自信が付けられるようにする。 ・アルファベットへの理解を深めるため、カルタなどゲームを取り入れたり、朝学習で書かせたりなど、楽しみながら覚えさせる。 ・リスニングにおいて、同じリスニングを毎時間行ったり、日本語の字幕をうまく利用して意味も捉えながら聞かせたりしていく。

教科指導の改善プラン（第6学年の具体的取り組み）

府中第四小学校 令和2年度

		国語	社会	算数	理科	体育
第六学年	現状の課題	・言語についての知識・理解・技能においては、漢字の書き取りに課題がある。定期的の実施している漢字小テストでは、高い習得率（95％以上）が見られるが、実施したまとめテストでは習得率が80％にとどまっている。また、学習した漢字を作文中で適切に使用したり、正確に音読したりすることは苦手な児童が多い。 ・「読むこと」においては、説明文の内容を読み取り、必要な情報を正確に取り出すことに課題がある。 ・「書くこと」においては、文章のまとまりごとに段落を分けて整理することや、接続語を正しく用いて筋道の通った文章を書くことに課題がある。 ・「話すこと・聞くこと」においては、意見と理由を分けて話すことは意識できるようになってきているが、習慣化されおらず、突発的に話す場面になると、理由が伴わないことが見られる。	・政治の仕組みや日本国憲法理念など、抽象的かつ生活と結び付けにくい内容であるため、知識・理解の習得率の個人差が大きい。 ・教科書や資料集から関連のある言葉を探し出したり、調べたりする活動には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連づけて考察したり、各自が興味をもって調べ学習を進めていくことには課題がある。	・分数という数の性質への理解に課題があるため、分数の乗法、除法では、既習事項と関連させて問題を解決することに難しさを感じる児童が多数見られた。また、分数÷分数の立式場面では、除法の意味の拡張が成されていないため、「÷分数」の理解に課題が見られた。 ・文章問題では、問題場面をイメージし、分かっていることと聞かれていることを整理して、正しい式を立てることに課題がある。 ・単位に対する理解が十分でなく、量感が乏しい児童が多い。	・観察実験の技能においては、基礎的な実験方法や適切な実験器具の使い方が十分に身に付いていない傾向がある。 ・理科的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得率に大きな差がある。 ・実験の結果から必要な情報を取り出したり、比較・関連付けて読み取ったりすることはそれぞれできる。しかし、実験結果から考察、推論することには課題がある。	・運動をすることに消極的な児童がいる。 ・作戦を立てて、ゲームに取り組む力に課題がある。作戦を実行に移す力が弱い。 ・運動能力の個人差が大きい。
	具体的な改善のための方策	・作文の中で漢字を活用できるように、日常の日記指導や作文指導の中で繰り返し指導していく。音読練習を適宜取り入れ、漢字と音を一致させていくように指導していく。また、あわせて敬語の種類についても繰り返し指導し、習熟を図る。 ・説明文の指導において、内容理解に偏重するのではなく、文章の構造、語句と語句のつながりなど、文章を読み解く論理の理解に重点を置いて指導していく。そのために、指導計画を立てるときには、各単元、1単位時間のねらいを焦点化していく。 ・文章を書く際には、構成メモを作成し、書きたいことの中心を明確にしたり、書き出しやまとめ方を考えたりしてから書くように指導していく。 ・学習内やスピーチなどの話す場面では、「自分の意見→理由・事例→まとめ・自分の意見という構成」「経験や知識に基づいた理由」などについて具体的に指導し、話し合いの中で自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。	・社会的な事象を政治に関わる視点に着目して捉え、国民の生活との関連付けを考えることで、学習を深めることができるようにする。 ・授業の中で、一つの資料から読み取ってだけでなく、関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて考察していく学習場面を設けていく。また、少人数や全体で検討し共有していく活動も重視していく。 ・ICT機器を活用し、本単元に関わりのある写真や動画、資料を提示することで学習意欲を高めたり、実感をもって学習を進められるようにする。	・文章問題から、何を求める問題なのかを意識させ、計算の反復復習を行う。 ・数直線をかき、式を立てることができるようにする。 ・小数や分数の量感や意味をしっかりと身に付けることができるようにする。朝学習や家庭学習を利用して、既習内容の復習を適宜行う。 ・公式や、単位の換算などは、成り立ちや関係性を考えながら、その習得に努めることができるようにする。 ・文章題や単元の導入で、自分の考えをノートに書いたり発表したりすることで、学習内容の見通しをもたせる。また、友達と意見交流をすることで、新しい考えを見出したり、友達の考え方のよい部分を見つかったりできるようにする。	・観察・実験においては、使用する器具の使い方や実験方法、手順について共通理解する時間を確保する。また、実験結果から必要な情報を取り出した上で、そこから何が分かるのかという考察する活動をより充実させていく。（例：自分の考えをまとめる時間の確保、小集団での協同学習、全体での共有化など） ・植物の成長や、雲の動きなど、生活の中で身近ではあるが、あまり意識して活用する機会が少ないものに対する知識・理解の習得率が低いので、さまざまな単元の中で復習的に扱うことができるようスバィラルに学習計画を立てていく。	・動機付けを工夫し、スモールステップで課題に取り組ませる。 ・ゲームにおける効果的な動き方を教えたり、考えさせたりして、作戦の有効さを感じさせる。 ・体育ノートを活用し、児童一人一人が自分の力に合っためあてをしっかりとともち、スモールステップで達成していけるよう指導の工夫や場の設定を行う。
		音楽	図工	家庭	特別の教科 道徳	外国語
	現状の課題	・学習規律を守り、意欲をもって活動に取り組む児童が多い。 ・児童一人一人が活動における感じたことや考えをしっかりと持つ。ワークシートによく書くが、友達と共有する活動は消極的である。同様に、声による音楽表現に対して児童の抵抗感がある。 ・感染症拡大予防のため歌唱・器楽表現を主とする学習が未実施である。	・課題達成にこだわらず、進度に差が大きい。課題達成意識が低い。 ・発想が似通う児童が多く、造形活動による個性の表現に抵抗感がある。	・学習内容に対する興味・関心に、個人差を感じる。 ・簡単な調理や手縫いの技能に差がある。	・道徳的価値への理解に課題がある。 ・物事を多面的、多角的に考える力に課題がある。 ・自己の生き方を深く考えていくことに課題がある。	・様々な単語、センテンスを理解している児童もいれば、アルファベットの理解をままならない児童がいるなど英語の習熟度に差がある。また、アルファベットの文字と音声が一致しないため、センテンスを示しても読み取ることができず、片仮名英語になってしまう児童が多い。 ・ALTを活用して授業を構成することに課題がある。
	具体的な改善のための方策	・様々な学習活動を設定するとともに、特に児童の感想や意見を共有できる場面を意識的に設けていく。 ・児童の音楽表現への抵抗感や学習のつまづきを教師が把握したり励ましたりできるよう、ワークシートでのコメント返しを引き続き活用していく。 ・飛沫防止を念頭に置き歌唱・器楽表現の学習を行う。	・指導の内容を児童自身が、言語化して確かめる場面を授業ごとに設定し、一人一人が確実に課題の把握をできるようにする。 ・児童の思い・つまづき・進度をノートや作品などで確かめながら、声掛けで適時適切に評価できるように心がけ、つくりだす喜びが味わえるようにしていく。	・実践カードなどを用いて、自分と家族などのかかわりを考えて、実践する喜びを味わわせる。 ・グループ学習を用いて、互いに教え合うことで、互いの技能を高め合わせる。	・道徳的価値への理解が深められるよう、導入では道徳的価値の提示や事前アンケートを活用し、問題を自分事として捉えられるようにする。 ・普段の生活場面から、物事は様々な面から見られることを取り上げ、児童が多面的、多角的に考えることのできる材料を与える。また、地域や社会で活躍している人物を紹介し、自己の生き方とつなげて考える機会を設ける。	・単語や会話の習得に力を入れ、アルファベット文字指導もフォニックスを活用して行っていく。 ・ALTやCDの音を繰り返し聞かせる。また日本語で話すことを否定せず、英語を無理に発話させない。 ・チャンツやゲーム、歌等を積極的に活用し、ALTや友達と関わる活動を取り入れる。さらに、外国の文化と日本の文化との違いや共通点等を考えさせることで、他国との違いや良さを感じさせる。 ・授業後にふり返りを行い、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。